

観賞温室第2室 企画展示

- 7月4日(日)まで
「消えゆく植物 かけがえない命 絶滅危惧植物展」
- 7月7日(水)～9月5日(日)「遊んで学べる食虫植物展」
- 9月8日(水)～11月14日(日)
「ビックリ! なるほど!? 植物の生きる力」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 7月4日(日)まで「neziのヘンテコ植物園2」出展:nezi
- 7月7日(水)～7月25日(日)「富樫信平植物画展」
- 7月27日(火)～8月8日(日)「博物館実習生展示」
- 8月10日(火)～22日(日)
「森の素材と木でつくるおとぎの森の風景パート2」
出展:NPO法人 お山の森の木の学校
- 8月24日(火)～9月12日(日)「折紙作品展」
出展:日本折紙協会新潟支部'はまなす'
- 9月14日(火)～26日(日)「中村澄子和紙ちぎり絵教室作品展」
出展:中村澄子と和紙ちぎり絵教室
- 9月28日(火)～10月17日(日)「COSMOS(小宇宙)」
出展:マミフラワーデザインスクール

観賞温室第3室 特別展示

- 7月27日(火)～8月8日(日)「大輪朝顔展」
協力:西島シーニアクラブ大和会
- 8月24日(火)～8月29日(日)「変化朝顔展」
協力:新潟変化朝顔同好会

夏休み夜間開園

- 「不思議!夜咲く熱帯植物」 参加費:無料(要入館券)
14日(土)19:00～19:30 ※要予約(開催日の1ヶ月前から)
定員:15名 講師:倉重祐二(県立植物園副園長)
- 「真っ暗闇ナイトツアー」 消灯した閉館後の観賞温室をご案内します。
14日(土)20:40～21:30 ※要予約(開催日の1ヶ月前から)
定員:15名 参加費:大人600円・中学生以下100円(おみやげ付)
- フルーツアンサンブルコンサート
14日(土)18:30～19:30 会場:観賞温室第3室

秋の植物園まつり

9月19日(日)20日(月・祝)9:30～16:00

会場:エントランス広場 ほか
内容:バックヤードツアー、ミラクルフルーツ不思議体験、
自然素材を使った体験教室、物販(食品・食品)など

熱帯植物ガイドツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増!ツアーに参加された方には記念写真プレゼントもあります。

- ①10:40～ ②14:40～(土・日・祝日は13:40からも実施)
- 当日温室発券カウンターにて受付・定員制

花と緑の相談コーナー

専門相談員がわかりやすくお答えします。
来園のほかFAX、電子メールでもお気軽にお問い合わせ下さい。
専用ダイヤル0250-24-6437 受付日:水曜・日曜10:30～15:00

花と緑の教室

会場(または集合場所):花と緑の情報センター

- ※要申込(開催日の1カ月前から)
- 7月4日(日)10:00～11:30「新潟の絶滅危惧植物」
講師:石沢進(元新潟大学理学部教授、積雪地域植物研究所) 定員:50名
- 7月8日(木)10:00～11:30「花木の手入れーアジサイの管理ほか」
講師:田中良明(樹木医、県立植物園職員) 定員:15名 参加費:無料
- 8月28日(土)10:00～11:30「バラの育て方②秋に咲かせる剪定」
講師:佐藤七郎(新潟ばら会副会長) 定員20名 参加費:無料
- 9月16日(木)10:00～11:30「見てみよう!雑草③」
講師:田中良明(県立植物園職員) 定員:15名 参加費:無料

花と緑の教室特別企画「植物と食文化講座」

- 第1回「新潟の野菜とイタリア料理」7月1日(木)9:30～12:00
定員:20名(要予約) 参加費:1,500円
講師:山田秀行(クチャーナ・デル・オテント)、永井明子(県立植物園)
会場:クチャーナ・デル・オテント(新潟市新潟地域交流センター内)
- 第2回「地元野菜を使ったお食事と湯田上スイーツ」
9月18日(土)11:00～13:00
定員:50名(要予約・受付期間:7月21日(水)～9月10日(金))
参加費:1,500円 講師:野澤隆義(ホテル小柳)・倉重祐二(県立植物園)
会場:湯田上温泉ホテル小柳

夏休み親子教室 会場(集合場所):花と緑の情報センター

定員:各回小学生15組(保護者同伴必要) ※8月15日のみ10組です
●参加希望の方は電話でご予約下さい

- 〈7月17日(土)9:00から受付開始〉
- 7月31日(土)10:00～11:30「食虫植物を育ててみよう」
講師:田中良明(県立植物園職員) 参加費:500円
- 8月1日(日)10:00～11:30「食虫植物を育ててみよう」
講師:小坂幸生(新潟食虫植物愛好会) 参加費:500円
- 〈7月24日(土)9:00から受付開始〉
- 8月7日(土)9:00～10:30「押し花をつくろう」
講師:永井明子(県立植物園職員) 参加費:500円
- 8月8日(日)9:00～12:00「植物標本教室」
講師:橋本永(県立植物園職員) 参加費:無料
- 8月15日(日)19:30～21:00「集まれ!夜の昆虫」
講師:石川小百合(森林インストラクター) 参加費:無料

夏休み体験教室 会場:観賞温室第3室ほか(入館無料エリア)

- 時間:10:00～15:00 ※当日随時受付、受講料は変更になる場合があります。
- 8月6日(金)～8日(日)「黒竹のオカリナ・バラストーンボづくり」
受講料500円 藤春工房
- 8月20日(金)～22日(日)「黒竹のオカリナ・バラストーンボづくり」
受講料500円 藤春工房
- 8月21日(土)・22日(日)「ハーブでつくろう!」
受講料650～1,000円 ジャパンハーブソサエティ新潟支部
- 8月7日(土)・8日(日)「アメリカンフラワー体験教室」
受講料400～800円 アメリカンフラワー
- 8月14日(土)・15日(日)「夏休みかんたんクラフト教室」
受講料700～1,000円 工房竜
- 8月10日(火)～17日(火)「夏休み木とふれあう工作教室」
受講料400～3,000円 NPO法人 お山の森の木の学校

●観賞温室利用案内

開館/9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円
※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

7	8	9
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ ・ 1 2 3	1 2 3 4 5 6 7	・ ・ ・ 1 2 3 4
4 5 6 7 8 9 10	8 9 10 11 12 13 14	5 6 7 8 9 10 11
11 12 13 14 15 16 17	15 16 17 18 19 20 21	12 13 14 15 16 17 18
18 19 20 21 22 23 24	22 23 24 25 26 27 28	19 20 21 22 23 24 25
25 26 27 28 29 30 31	29 30 31 ・ ・ ・	26 27 28 29 30 ・ ・

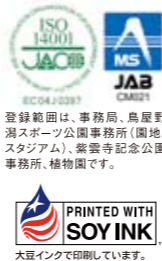
●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新潟ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J R/信越線古津駅から徒歩約20分
バス/区バス:新潟駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新潟駅東口から「矢代田」経由白根・湯東営業所」行き
「新潟美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター



新潟県立植物園

植物園だより



カノコユリ

Lilium speciosum

〈ユリ科〉

四国、九州地方の山地の崖などに
自生する球根植物で、反り返った花卉
の赤い斑点が色鮮やか。この斑点が
「鹿の子」模様に似ることから名づけら
れた。私たちが目にするのはおそらく園
芸品種の'内田カノコ'。自生地では開
発による減少が著しく、環境省レッドリ
スト(2007)では絶滅危惧Ⅱ類に指定
されている。他の花が休んでいる8月に
花を咲かせ、なお鮮やかな花色で目を
ひく。
(永井明子)

富樫信平 画 1988.8.10 九州原産



企画展示

食虫植物展

平成22年
7|7(水) - 9|5(日)



チビッコに人気絶大の食虫植物展。食虫植物には不思議がいっぱい! どうして植物が虫を食べるの? なぜ虫たちは危ないウツボカズラの袋(補虫囊)に入っちゃうの? ハエトリソウってほんとにハエを食べちゃうの? 小さなモウセンゴケに大きな虫がくっいたらどうなるの? 子供たちの頭の中は疑問でいっぱい! 展示では図や模型を使って子供たちの疑問に答えます。

今回は、大きなケースにたくさんの食虫植物とハエなどの虫を入れて捕まえる瞬間をお見せしたいと思います。ウツボカズラハウスや巨大ハエトリソウ、モウセンゴケに捕まる体験など、例年にも増してグレードアップした体験コーナーで食虫植物が虫を捕まえる仕組みを学んでいただけます。この他にも大人気の動く草「オジギソウ」の草原も登場します。楽しみながら学べる食虫植物展に来てくださいね。



園内
ウォッチング

温室●オオオニバス、パラグアイオオオニバス、オニバス



ドーム内に植栽されているオオオニバス (Victoria amazonica)

平成19年1月に当園で初開花したアマゾン原産のオオオニバス (Victoria amazonica) は、平成20年12月にその寿命を終えました(一回結実性)。その後、次代の個体の育成を試みた結果、昨年12月に熱帯ドーム温室の池に移植したものが順調に生育し、葉の大きさが1mを超えるまでに成長しました。6月9日に第1花が開花し、メロンに似た甘い香りがドーム内に広まりました。これからも次々と咲き続けます。

また、昨年の11月に富山県中央植物園からオオオニバスに近縁のパラグアイオオオニバス (Victoria cruziana) の種子を譲り受け、今年

の3月に播種し、育苗を始めました。現在まだ、葉の大きさは30cm程度ですが、夏には1mを越す巨大株を目指しています。オオオニバスとの比較ができるように並べて展示しています。さらに試乗体験もできればと思っています。

形状が似ているため、オニバス (Euryale ferox) とよく間違われる方が多いですが、オニバスは新潟県などに自生し、福島潟が北限になっている植物で、アザミに似た花を咲かせます。オオオニバス、パラグアイオオオニバスは南米原産で、スイレンに似た花を咲かせます。オニバスは園内のオニバス池で観察することができます。(橋本 永)



育苗中のパラグアイオオオニバス (Victoria cruziana) 夏には試乗体験を行いたいと思っている。今後の生育に期待。



オオオニバス (Euryale ferox) 福島潟などに自生し、新潟県が生育分布の北限になっている一年草。オオオニバスとよく間違われる。

企画展示

ビックリ! なるほど! 植物の生きる力

平成22年
9|8(水) - 11|14(日)



種子を飛ばすゲンショウコ



花のしくみはどうなっているの?(ランの仲間)

観賞したり、食べたりと、私たちは植物の美しい姿やおいしい果実に注目することがほとんどです。しかし植物が花や果実をつけたり変わった形をしているのは、生きていくためや子孫を残す手段であり、そこには様々なしくみが隠されています。

身近にあり常に生活に関わりをもっている植物について、私たちが知らないこと、気づかないことがたくさんあります。今回は、なぜ種子がこのような形なの? どうしてこの花はこんな形をしているの? など、植物を多角的にみながら、「美しい」「おいしい」だけではない植物の一面をご覧くださいと思います。

園内
ウォッチング

園地●白い花

今回は、暑い季節に私たちの目を楽しませてくれる植物のなかから、白い花を咲かせるものをご紹介します。

花が2つ重なったようになるシロフタエギキョウは、7月ごろから咲きはじめます。ノリウツギの園芸種であるミナツキは、7月(旧暦の6月:水無月)に咲くことからこの名前があります。その名のとおり、白い蝶のようなハクチョウソウ、純白の小さな花をたくさんつけるアキレア'ザ・パール'は、初夏から初秋にわたる長い間咲き続けます。9月に入ると、ハギやマンジュシャゲの白花を見ることができます。(林 寛子)



シロフタエギキョウ
Platycodon 'Shirofutaegikyo'
(キキョウ科)

ミナツキ
Hydrangea paniculata f. grandiflora
(アジサイ科)



ハクチョウソウ
Gaura lindheimeri
(アカバナ科)

アキレア'ザ・パール'
Achillea ptarmica 'The Pearl'
(キク科)



ハギ(白花)
Lespedeza japonica cv.
(マメ科)

シロバナマンジュシャゲ
Lycoris cv.
(ヒガンバナ科)

NEWS 1

「にいがた花物語」を公開

<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/hanamonogatari/index.html>

平成10年からはじめた新潟県の花き園芸史の調査結果を分かりやすく多数の写真をつかって当園ホームページに公開しています。

新潟県は江戸中期から続く古い園芸産地であり、近代においてはヤブコウジやボタンなどの古くから日本で栽培される植物や、チューリップ、アザレアやジャクナゲなどの西洋の植物などさまざまな植物の栽培に取り組み、繁殖や栽培、販売について本邦の園芸産業をリードしてきました。現在も本県は日本一の鉢物花木の生産地ですが、これまでまとまった記録がありませんでした。このため、植物園では通信販売用カタログ等の古い資料の収集整理、聞き取り調査などをつうじて、新潟県の園芸の歴史の取りまとめを行ってきました。これまで新聞記事や企画展等でその成果を公表してきましたが、この度、ホームページ上で調査の詳細な成果を順次公開することとしました。4月16日には新潟日報朝刊には、「ずらり壮麗園芸史 県立植物園ホームページで公開 時代を映す文化遺産」の記事が掲載されました。

これまでにチューリップ球根の商業生産の年代が定説の大正8年より早く行われてきたことなどを明らかにしてきましたが、まだまだ新資料が発見されると思います。多くの困難に立ち向かい、時代を切り開いてきた人々の歴史を知ることで、皆様が園芸産業へ理解を深め、関係者にとっては将来の園芸産業のあり方を考える上での一助になればと期待しています。

(倉重祐二)



ヒスイカズラ (*Strongylodon macrobotrys*)
フィリピン原産のマメ科のつる植物。自然界ではコウモリが花粉を運んで結実する。絶滅危惧種に指定されている希少な植物。



NEWS 2

ヒスイカズラの果実を実らせたい

第1温室熱帯ドーム内にはヒスイカズラが植栽されており、今年の春はたくさん花をつけました。以前からこのヒスイカズラに実をつけてみたいと思っていましたが、なかなか結実せず、たくさん花が着いた今年も絶対に結実させたいと、「絶滅危惧種ヒスイカズラの繁殖と保存に関する研究」(小西達夫1999)などの論文を読み、受粉作業を4月上旬より開始しました。

受粉作業を開始しても、数日間で次々に落花し、実を結ぶものはほとんど無い中、受粉後10日後まで落ちずに残った花の子房部分が膨らんでいるのを確認した2日後、その実も遂に落ちてしまうという、大変残念な思いを繰り返しました。

落果の原因は不明でしたが、論文によると、人工受粉で結実する率は1~2%程度とのこと。めげずに受粉を続けた結果、5月末に受粉したものが5個結実しました(6月23日現在)。このまま順調に生育すれば、ぶら下がっている果実が9月中旬までご覧いただけます。

(橋本 永)



受粉作業:花の中央部を抑えると雄しべと雌しべが出てくる。雌しべの先を少しこすってから受粉を行う。



受粉13日後(5月3日)の花の状況:ここまでくれば大丈夫かと思ったが、この3日後に落果してしまった。

NEWS 3

花苗植え

5月15日土曜日、新津商工会議所のみなさんと、当園のボランティアスタッフでエントランス広場の花苗の植え付けを行いました。

植えたのは、初夏から夏いっぱい咲き続けるペチュニア、4色2,000株と、背の低いタイプのヒマワリの種。集まった35名でとりかかり、2時間ほどで植え終わりました。

夏にはペチュニアとヒマワリの競演が楽しめます。

(林 寛子)



間隔をしっかりと測って...



植え付け完了



八田先生と芽の様子を観察する参加者のみなさん

NEWS 4

八田先生による樹木観察会

4月15日に国立科学博物館の名誉研究員で樹形研究会の代表を務める八田洋章先生をお招きし、樹木観察会を行いました。八田先生は現在全国各地の会員とともに、冬芽が展開してからその年の成長が終わるまでの様々な変化を調査・記録し、長い日本列島の樹木フェノロジー(生物季節)の実態を明らかにしたいと奮闘しておられます。当園でもボランティアの皆さんが定期的に樹木を観察・記録し続けています。今回、八田先生に日頃のフェノロジー調査における疑問にもお答えいただき、ボランティアの皆さんも非常に有意義な時間を過ごしました。

図鑑で樹木を見分ける場合、植物の個体差で判別しづらいことが多いのですが、実際に枝を手に取りながら確実な見分け方を解説していただき、今までとは違った目で樹木を観察する楽しさも教わった気がします。

また10月に先生をお迎えし、第2回の樹木観察会を開催する予定です。

(永井明子)

NEWS 5

ミニガーデンコンテスト

当園が実行委員の一員として参加している「にいつ花ふるフェスタ」が当園園地を会場に今年も6月6日に開催されました。その中の企画「ミニガーデンコンテスト」の作品がフェスタ1週間前からエントランス広場を彩りました。

プロ部門18作品、一般部門13作品、色とりどり個性あふれる楽しい作品の数々を鑑賞しながら、来園者の皆さんの会話も弾んでいる様子でした。

(大谷史絵)



表彰式の様子(にいつ花ふるフェスタ当日ステージにて)



プロ部門 最優秀賞「Peaceful garden」新津フラワーランド



一般部門 最優秀賞「お庭でシヨパン」小合唱の会 #チーム



春に葉の展開とともに咲く花



実は黒色



クロモジの楊枝

新潟の植物

オオバクロモジ

Lindera umbellata var. *membranacea*
(クスノキ科)

北海道(渡島半島)と本州日本海側に分布する日本海要素の落葉低木で、新潟県内では全域にわたって分布し、低地から山地に広く見られます。

本州の関東、中部以西に分布する基本種クロモジにくらべて全体的に大型で、葉はクロモジのものよりひと回り大きく、長さ12~13cmになります。

クロモジの名は、樹皮に見られる黒い斑点が文字のように見えることに由来します。

葉や枝に香りがあり、特に樹皮に成分が多く含まれ、枝は皮付きのまま楊枝につかわれてきました。そのさわやかな香りは散策しているとふとただよって来て、疲れをこちよいものにしてくれます。(林 寛子)

友の会通信

春の植物園まつりに出店しました

植物園まつりに友の会でも野外テントを設置し、植物販売や会の紹介などを行いました。今年は、「にいがた花絵プロジェクト」の作製地として、花絵づくりも行いました。5月4日には11人で紫雲寺のチューリップ畑へ。にいがた花絵プロジェクト中村さんの案内で13,000本以上の花を摘みました。最初は、花盛りのチューリップを折ることに抵抗を感じていましたが、そのうち、ポキッポキッの音が快感になってきて、腰がそろそろ限界という前に終了することができました。摘んだチューリップを植物園に運び、午後に来園者からチューリップ型のボードに花を挿してもらいました。チューリップを挿したボードは、植物園の池に浮かべ、植物園まつりのあと5月9日まで展示しました。

初めての試みでしたが、みんなで楽しくでき、また会員以外の方にも友の会をPRできたのではないかと思います。

友の会会員のみなさんが家庭で育てて増えた花苗などをたくさん出品、販売し、来園された方々に好評でした。



紫雲寺の畑で花摘みの説明を受けているところ



花摘み風景 ポキッの音が快感



花絵づくり たくさんの人に手伝わってもらいました



普段できない体験でみんなに楽しんでもらったようです



植物園の池にもたくさんのチューリップの花が咲きました

第1回 園内観察会を行いました

5月30日に第1回園内観察会を行いました。12人が参加しました。まず、にいつ花ふるフェスタ ミニガーデンコンテストの作品をみんなで観賞しました。作品に使われている植物を「これは何?」「この植物は〇〇の仲間だね」など、友の会らしい会話が弾みました。続いて、宿根草花壇へ向かい旬の花を観察。植栽されている草木だけでなく、オッタチカタバミなど旬の雑草も観察。ツツジ園の途中から芝生広場にて、水辺を散策。カキツバタ、まだ小さいオニバスの様子、さらにオニバス池にいた大きなカラスガイも観察しました。当初、毎月1回最終日曜日午前10時からの予定でしたが、変更し、午後2時から行います。興味のある方は御参加ください。みんなで園内を歩くと新しい発見が次から次へとできて大変おもしろいですよ。

にいつ花ふるフェスタ ミニガーデンコンテストに出品しました

にいつ花ふるフェスタ ミニガーデンコンテストに友の会も出品しました。自然風な展示で「妖精の棲む森」という作品名で出品し、5月30日~6月6日まで展示されました。みんなの努力がみのり、「新津フラワーランド賞」を受賞しました。大賞作品に引けをとらない力作ができたのではないかと思います。



完成 力作が出来上がりました。

新潟の天然記念物

弥彦の蛸ケヤキ

Zelkova serrata

県指定文化財 天然記念物
(昭和27年12月10日指定)

越後一ノ宮弥彦神社前の大通りを西へ少し入ると細い路地の正面に木製の鳥居と小さな祠、その後ろに巨大なケヤキの老木が見えます。樹齢は800年以上とされ、目通り周9メートル、樹高は30メートルに達します。この大ケヤキは幹の地上部近くから枝が八方に広がっていることから「蛸ケヤキ」と呼ばれています。

老木となり枝の腐朽が進み、枝折れの危険から横に張った大枝が切られてはいるものの蛸の頭の部分にあたる幹には、大きな瘤がいくつも重なり、まるで大蛸が空に向かって暴れているようです。弥彦神社周辺には、「弥彦の蛸ケヤキ」をはじめ「弥彦の婆々スギ」(vol.31で紹介)、良寛が「よろづ代に 仕へまつらむ 伊夜彦の 杉の下道い行きかへらひ」と詠んだ「弥彦参道スギ並木」などの県指定の天然記念物が集まっています。弥彦神社参拝のおりには少し時間を取って新潟の天然記念物ウォッチングに出かけてみてはいかがでしょうか。

(田中良明)



新潟県立植物園 友の会会員募集

友の会会員を随時募集しています。興味のある方は友の会事務局(新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465)までお問い合わせ下さい。

友の会ブログもご覧下さい

新潟県立植物園 友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで、携帯電話からも投稿できます。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員(わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています)敬称略

●株式会社アート ●株式会社アート環境設計 ●齋藤不動産